

広報企画検討会

（2021年度 活動報告）

1. 広報活動についての検討

運営委員会内で、広報について、議論した。

2. 「ウェブサイト制作実行チーム」「デジマガ制作実行チーム」の活動

（ア）ウェブサイト制作実行チーム

入会申込書や各種申請書、運営委員会内で使用する文書テンプレートを掲載して、いつでも必要な時にだれでもダウンロードできるようにした。

（イ）デジマガ制作実行チーム

2021年度は、お試し版を2回発行した。内容は、運営委員の紹介。

3. 積極的な広報についての検討

（ア）こむ1会宛へのメールを、運営委員で共有する仕組みを作った。

（イ）案内冊子を作成して、見学会にて使用した。

（ウ）運営委員会のレジメや議事録を、ウェブサイトに掲載することが、定着した。

（エ）「お知らせ板」を配置して、広報に役立てるようにした（2022年7月～）。

（オ）館内の掲示物を検討した。正面玄関の広報掲示板を充実化すること、二次元バーコードなどでウェブサイトにアクセスしやすくした。

（カ）案内動画制作について検討および制作は、検討は行ったが、制作まで至らなかった。

4. その他

（ア）こむ1会のメールアドレスを変更した

変更後 mail@comonet.com

広報企画検討会

（2022年度 活動計画）

1. 広報活動についての継続検討

- ・ 館内見学の方法
- ・ 掲示板や館内の掲示物（館内表示）
- ・ 手話言語、音訳、映像（イラスト）を用いた広報の検討

2. 「ウェブサイト制作実行チーム」の継続

3. 「デジマガ制作実行チーム」の継続

4. 積極的な広報を行うことを検討

① 目的目標および現状

- ・ 宝塚市民なら「paraこむ1」と「こむ1会」のことがわかるようにしたい。
- ・ 存在自体「どこ？」って言われ、プレミアとの違いが理解されていない現状を変えたい。「ボランティア団体が使う施設」の理解から（自分とは関係ない事として）関心が発展していかない状態。
- ・ こむ1会のことを知ってもらって、利用者（ボランティア）を増やす

② 内容（積極的な広報とは）

- ・ 館内見学の依頼などの紹介できる機会があれば広報を行う（待ちの姿勢）から、広報する機会を積極的に自ら探し、作り出して、行っていく（攻めの広報）。
- ・ こむ1会内（会員向け）の広報活動だけでなく、対外的（市民向け）な広報を検討する。例：子どもや市民対象に「館内見学」を自主的に企画して実施、子ども向けの館内見学のリーフレット作成配布など。
- ・ こむ1会への参画のメリットを広報する（現状はデメリットの方が目につきやすいので、良い点を見つめ直し、作り出して、積極的にアピールする）。例：「利用者が自分たちのチカラでつくれる施設」
- ・ 広報の「伝え方・言葉の使い方」は重要で、正しく伝える。例：「無料の施設」は誤解を生みやすく「施設の利用料は、社会的課題に取り組むボランティア活動の行動実績」と相応しい言葉を選ぶ。

5. 予算が必要になる（必要な経費が使える仕組みを検討）

- ・ 大人向き、子ども向きの資料作成（リーフレット作成代）、小学生への出前講座（説明資料作成）などの広報活動のための必要経費が不明確で計画しにくい現状がある。

6. ワーキングに多くの人が参画してもらう仕組みを検討

（運営委員以外からも参加が欲しい）

- ・ 広報活動を細分化する（さまざまな実行チーム）ことで、作業内容が単純化、わかりやすく、部分的な参加がしやすくなるので、多くの人に興味ある作業や手伝える内容で参画が増える仕組みが必要。ワーキング間の連携も検討（広報の検討内容は、他のワーキングに横断や重複する内容）。